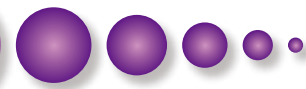


4. 自主防災組織および個人の日頃の取り組みと発災時の行動



(1) 日頃の取り組み

阪神・淡路大震災で発生した火災は 285 件を数えました。拡大を防止するためには日頃から災害に備えて準備をしておくことが大切です。各家庭で、以下の取り組みをしていただくように各町会で啓発・推進します。

① 出火防止

大地震時などにおいては、火災の発生が被害を大きくする主な原因であるので、出火防止の徹底を図るため、次の事項の点検・整備を進めます。

- ・火気使用設備器具の整備及び、その周辺の整理整頓状況
- ・可燃性危険物品（カセットボンベ・灯油など）の保管状況
- ・消火器など、消火用資機材の整備状況
- ・その他、建物等の出火の恐れのある危険箇所の状況

② 家具転倒防止器具の取り付け促進

家具の転倒防止を推進するために次の事項を啓発・推進します。

- ・室内の危険箇所の点検
- ・安全対策、転倒防止策の検討
- ・家具の設置場所の変更や転倒防止器具取り付け



[マンションで特に想定される被害と対応例]

- ・停電等によるエレベーターの停止（閉じ込め）
- ・家具・冷蔵庫等の転倒によるケガ
- ・玄関ドアが変形等で開かなくなる
- ・断水、排水設備の破損でトイレが使えない

[対応例]

- ◇閉じ込め対応キットの設置
- ◇家具の固定
- ◇避難路（ベランダ）の確保
- ◇食料、水、携帯トイレの準備

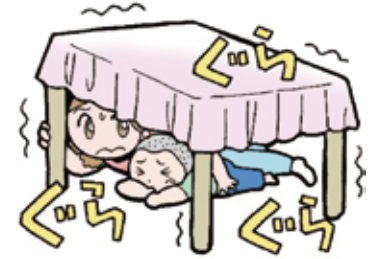


(2) 災害時の取り組み

【地震】

① 災害発生当初の行動

- ・机、テーブルの下に潜るなどして、まず自身の頭や体を守る。
- ・室内においても、スリッパ、靴をはき足を守る。
- ・都市ガスは震度5相当以上でほとんどのご家庭で自動的に遮断されますが、ガスの元栓を閉め復旧時の二次災害に備える。
- ・避難時は、電気器具等は電源を切りブレーカーを落とし、通電火災等の発生を防止する。
- ・玄関のドア、扉を開け避難路を確保する。
- ・家族、親類等の安否を確認する。
- ・室内、家屋の安全を確認する。
- ・災害の情報を取得する。



② 安否確認

- ・自分と家族に被害が無い場合、白いタオルなどを玄関やドアノブなどに掛け安否を知らせる。
- ・町会責任者は町会別集合場所で町会役員に安否確認を実施させ、把握する。
- ・安否が不明な時は、救出・救護班と一体となり、救出・救護活動を行う。
- ・地域外に避難する場合には、町会別集合場所にいる班長、町会役員等へ避難先（連絡先等を含む）を伝える。



③ 初期消火

- ・火災発生発見時は大声で隣近所に伝え、応援をもらうと共に、消火器等にて初期消火に努める。
- ・マンション等の集合住宅の場合は非常ベル等で知らせる。
- ・火が大きくなり、消火が困難な時は、初期消火を中止し、身の安全を守るため避難する。
- ・要配慮者の誘導支援をする場合には、風上方向へ避難させる。
- ・可搬式ポンプ等が準備できれば使用する。

